

数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル) 自己点検評価

評価日時: 2026年4月6日

会議名称: 組織マネジメント委員会

開催場所: 東京工業高等専門学校

参加者: 校長、副校長(各担当)、校長特別補佐、事務部長、学科長、一般教育科長、専攻科長、教育研究技術センター長、情報基盤センター長

目的: 令和7年度の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検評価

評価項目: 文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	自己評価	評価理由
プログラムの履修・修得状況	B	本校の応用基礎レベルの認定は令和7年度であり、既に一部の選択科目の授業が開始していたこともあり、十分な周知ができず履修率が低かった。今後はリテラシーレベル・応用基礎レベルともにその意義について丁寧に継続的な説明を行なうことで、履修率の増加を目指す。
学内からの視点:プログラムの学修成果、学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	B	本教育プログラムの認定率は低いが、受講している学生のほとんどが単位を取得しているので、学生の内容の理解度は高い。授業評価アンケート及び授業評価アンケートに対してフィードバックを行う全学的なシステムがあるので、今後もこのシステムを活用して、学生からの推奨度等の調査を継続的に実施する。
学外からの視点:教育プログラム修了者の進路、産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	B	外部評価の機会である参与会では自己点検評価書等を通じてAI教育の意見を聴取している。今後は東京高専技術懇談会等、他の産業界からも本項目の評価を行っていく予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	B	リテラシーレベルに比べてプログラムの履修率が低い値にとどまってしまったため、今後は学生に対し、リテラシーレベルに加えて、応用基礎レベルを学ぶ意義や必要性について丁寧に説明し、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの科目群を積極的に受講するよう促すこととする。また数理・データサイエンス・AIを学ぶ意義について説明する機会を低学年にも設けてさらに浸透させていく。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	A	シラバスの目的・到達目標、教育方法等、授業計画などについて相互点検を実施して、修正が必要な箇所全てにおいて修正を終えている。

内部評価の基準

A: 十分満足している。B: 満足している。C: 改善を要する。